

【赤グループ】

- ・言葉が通じなくても普段から近所の外国の方と笑顔で挨拶する仲になる
- ・各国ごとに日本語の上手な方を探す
- ・リーダーになってもらう
- ・普段の挨拶から知り合いになる
- ・自分から話をするように中に入っていく
- ・食糧、水、トイレは町内会にある→町内で連携して会館に準備しておく
- ・町内会のどこに外国人が住んでいるのか
- ・1人の外国の方が他の外国の方を紹介して下さるようにしていただく
- ・多言語による情報共有
- ・何が困ってるのか聞いてあげる事
- ・文字による情報提供
- ・小学校からの情報提供

【緑グループ】

- ・普段から親しい関係をつくる
- ・町内会イベントの参加への呼びかけ
- ・現在の町内会名簿の作成(災害時の迅速な対応のため家族構成を明確化する)
- ・町内会行事(バーベキュー、焼き芋大会)を通して顔なじみの関係になる
- ・町内会の行事に外国人の方を積極的に誘い、親睦を深める
- ・子どもたちを仲介として保護者に町内会行事に参加してもらうよう導く
- ・町内会行事をまずは子どもたちが参加しやすいようにする
- ・町内会行事等、普段からコミュニケーションをとる機会を作ることが大切
- ・掲示板等で日本語以外の言語も取り入れる
- ・多言語の回覧板を作成する
- ・言葉の壁があるので、日常会話ができるアプリを活用する
- ・情報伝達用の文章を多文化共生ラウンジに協力してもらって作成すればよいのでは
- ・個人情報の壁があり、住民の名前や子どもの学年、人数すらも把握できない

【黒グループ】

- ・外国人居住者の把握
- ・防災の注意事項や行動を单身マンションの掲示板に貼る
- ・学校を通して会話を始める
- ・町内在住の方を知る
- ・町内会費を払っていない住民
- ・先方がまず何を求めているか
- ・まずは挨拶から
- ・日頃から信頼関係を築く
- ・助けを必要とするときの合図や決まりを知らしめる
- ・町内会員であるかどうか(会費を払っているのか)

- ・言葉が分からないときは絵や図で伝える
- ・言葉がわからなくても手振りでコミュニケーション！
- ・日本の文化や情報をよく教えてほしい

【黄色グループ】

- ・外国人の防災リーダーの育成
- ・外国籍の方には絵などで知らせたら良いと思う
- ・まずは日本人の私たちが何をすればよいのか教えてほしい
- ・普段から外国人の方と顔なじみの関係になる
- ・自分の住まいの両隣は把握しておく
- ・町内会で外国籍の方を事前に把握しておく→外国語が話せる方を把握しておく
- ・助けを求められたら日本人同士でどのようにつなげていくか考えておく
- ・日頃から町内会への参加を呼び掛ける
- ・地震、火災、津波の動き方などを話しておく
- ・顔の見える町内会
- ・外国人と近所づきあいをしておく
- ・町内行事への声掛け→参加につなげる
- ・外国人に町内会役員になってもらう
- ・町内会行事に参加してもらって顔なじみの関係になる
- ・町内会と外国人でどう交流するのか
- ・いろいろな言語に翻訳されたものを役員だけでも持つておく
- ・物品支給

【無地グループ】

- ・町内会の存在を知ってもらう
- ・町内会館の防災グッズを見てもらう
- ・上手にコミュニケーションをとって町内会へ入ってもらう
- ・普段からの挨拶を心掛ける
- ・町内会の行事に参加してもらう
- ・外国人住民の所在の把握
- ・ワンルームマンション住民に働きかけ
- ・言葉の壁への取組
- ・外国人コミュニティとの交流イベントの開催